

第 1 回京都市生物多様性保全検討部会での主な御意見と今後の対応等について

	委員からの御意見	今後の対応
1	<ul style="list-style-type: none"> ・地域戦略は希少種保全を主目的としたものではなく、京都の特徴的な部分を掘り下げるべきである。また、経済ベースの循環（財の循環）だけでなく、自然界における物質循環についても検討する必要がある。ただし、この視点を追及すると市域に収まらないため、府の地域戦略との整合を図る必要がある。 	<p>本市の地域戦略（プラン）においては、希少種保全のみにスポットを当てるのではなく、ホットスポット（生物多様性保全対策上、重要な場所）とその間のつながりや、現実に直面している危機とその因果関係等の情報を把握したうえで、京都における特徴的な場所として示していく。また、生物多様性に係る資源を消費する立場からの検討を行う。合わせて、府とも情報交換を図り、プランの整合に努める。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・リテラシーの向上は生物多様保全を進めるうえで重要であることから、啓発活動をもっと進めなければならない。 ・教育委員会のプログラムを十分に活用するなど、学校教育・社会教育の充実が課題である。 	<p>御意見の趣旨を踏まえ、「生物多様性の保全を身近な問題として考え、行動する『人づくり』の推進」をプランのコンセプトとして掲げる、関係団体の活動やプログラムを把握したうえで、適切な協力関係を築くことに努める。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性の保全に向け、行政、企業、大学、市民団体の連携をどう進めていくのが重要である。 	<p>御意見の趣旨を踏まえ、「官・民・学等の『ネットワーク』づくり」をプランのコンセプトに掲げ、具体的なアクションプランを考えていく。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・民間事業者の生物多様性に関する活動を、CSR と位置づけるのではなく、サプライチェーンや事業所の土地利用といった本業の中で取り扱ってもらうような仕組みづくりが必要である。 ・生物多様性保全に貢献したいが、何をしたらよいかわからない企業や学校に対して、活動場所やメニュー、シナリオ等を提供すべき。 	<p>御意見の趣旨を踏まえ、「生物多様性保全に向けた『企業の社会貢献活動の拡大』の促進」をプランのコンセプトに掲げ、先進的あるいは模範的な企業活動を顕彰するなど具体的なモデルの普及に努める。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な祭り（祇園祭）と植物（チマキザサ）が関係しているなど、地域の伝統行事と自然保護をどう結びつけていくか考えるべき。 ・生物多様性保全を歴史、文化とタイアップしながら、祇園祭の粽や京野菜といった京都スペシャルを全面に出した内容にしてほしい。 ・京都ならではのポイントを明確にすべき。 	<p>御意見の趣旨を踏まえ、「京都の伝統的な文化を育んできた『自然との関わりの重視』」をプランのコンセプトに掲げる。</p>

	委員からの御意見	今後の対応
6	・タウンミーティングを実施してはどうか	生物多様性保全に係る活動を行っている民間事業者や市民団体等を対象とした意見聴取・意見交換の機会を設ける予定である。
7	・生物多様性保全に向けては、関係部局の連携が必要であり、既に進められている活動や事業を整理し、地域戦略に盛り込むことを検討してほしい。	生物多様性保全に係る取組について情報共有や連携等を図るため、関係部局による庁内会議を立ち上げる。
8	・市街地で多様性を担保するような場所（京都御苑など）や京都の特性である社寺林に着目すべき	プランに、これらの自然を活用した具体的な施策を盛り込むことを検討する。